

令和5年度指定管理業務に関する事業報告書（デイ）

施設名 京都市衣笠老人デイサービスセンター

1 施設の管理運営

- ・介護保険法に基づく通所介護事業の実施
- ・京都市総合事業（介護予防・日常生活支援総合事業）の実施

2 事業実施内容

- (1) 指定管理業務（本来業務：老人デイサービスセンター）
- ・事業実施に伴うサービス提供
（食時・入浴・機能訓練・レクリエーション・送迎・相談業務などの提供）
 - ・サービス向上に取り組むため、ユーザアンケートの実施や情報の公表、第三者評価受診
 - ・グループレク、個別レク、個別ニーズへの配慮等、利用者満足度の向上を図る
 - ・中、大学生、看護学校、支援学校の実習受入れ。ボランティアの受入れ
 - ・生活困窮者自立支援制度に係るチャレンジ就労体験事業の受け入れ
 - ・地域貢献事業として、学区健康すこやか教室への職員派遣、包括圏域認知症カフェの企画運営
 - ・域交流会の実施、地域の児童養護施設の地域交流会実施の協力参加

- (2) 指定管理業務（企画提案業務：指定管理者が提案し、施設内で実施している業務。例：配食サービス）

3 サービス提供状況

- 【職員体制】
- ・管理者 1名
 - ・生活相談員 2名
 - ・介護職員 8名
 - ・看護職員 5名（機能訓練指導員兼務）
 - ・調理員 5名
 - ・運転手 3名

再委託の実施状況（協定書に明記のない再委託業務）は、以下の通り。（例：給食調理業務）

- ・
- ・

4 市内中小企業への発注に対する考え方

本会においては、本会経理規程により、100万円以上に関しては、一般競争入札に付することとし、100万円未満の委託業務に関しては、随意契約としています。一般競争入札の場合は、市内中小企業も含めて広く公募し、随意契約では、市内中小企業にも配慮し、見積り合わせ行っています。

5 施設の利用状況（本来業務に係る施設の稼働率、利用者数、事業参加者数など）

(1) 延利用者数

① 令和5年度実績値 人

② 令和6年度目標値 人

(2) 実利用者数

① 令和5年度実績値 人

② 令和6年度目標値 人

(3) 収支実績

ア 本来業務（老人デイサービスセンター）

介護保険収入	58,428,550
利用料収入	4,408,733
委託料収入	
補助金収入	
寄付金収入	
雑収入	
その他	67,203,700
収入計	130,040,983

令和5年度収入状況及び支出の状況（単位：円）

人件費	87,532,180
事業費	12,781,886
委託費	
小額修繕費	
その他	29,723,461
支出計	130,037,527

6 施設の利用者満足度の把握

(1) 利用者満足度の把握状況

- ・法人統一満足度アンケートの実施
令和5年1月から配布し、集約結果を利用者介護者に返しています。
- ・ご利用者への聞き取りを実施するため、日常会話の中からご利用者の思い、満足度を聞き取るようにしています。

(2) 利用者満足度把握の結果

<主な項目>

利用時間	満足：70.5%	やや満足：25.0%	不満：0%	やや不満：0%	無記入：4.5%
送迎	満足：93.2%	やや満足：4.5%	不満：0%	やや不満：0%	無記入：2.3%
入浴	満足：61.4%	やや満足：18.2%	不満：0%	やや不満：0%	無記入：20.5%
食事	満足：75.0%	やや満足：9.1%	不満：0%	やや不満：0%	無記入：15.9%
職員対応	満足：73.3%	やや満足：11.4%	不満：0%	やや不満：0%	無記入：11.4%
満足度	満足：68.2%	やや満足：11.4%	不満：2.9%	やや不満：0%	無記入：20.5%

(3) 意見等への主な対応状況

アンケートの回答集計結果については、サービス向上検討委員会にて検討協議し今後のサービス向上につなげるよう努めています。アンケート結果とサービス向への取り組みについては機関誌と共に配布しています。

7 その他特記事項

(1)

新型コロナウイルス感染症対策を行いつつ、地域事業の再開に向けて取り組むことが出来ました。ご利用者の安全を優先しながらも今までできなかった事業を行っていきたいと思います。

(2)

8 評価（指定管理者自己評価）

令和5年度は新型コロナウイルス感染症対策を継続しつつも、地域に向けた取り組みや実習生の受け入れ、またボランティア受け入れの再開に向け取り組みました。施設として初めて寄りに施設開放を行い、大文字の送り火に合わせて地域の皆様と施設から送り火の鑑賞会を行う取り組みを実施しました。また介護者、地域向けに認知症勉強会とクリスマスイベントを実施し、多くの参加者に来ていただくことが出来ました。新たな取り組みとして、傾聴ボランティアの受け入れを行い、職員目線では気づきにくいご意見を聞き取り、サービスの向上につなげています。

コロナ渦でも安全対策を行いながら実習生の受け入れは細々と続けてきましたが、感染症対策を実施しながらも積極的に実習生の受け入れを行い特に中学生の実習について、実習後大きな変化が見られたことは良かったと思います。

今後も質の高い事業所を目指す継続的な取組として、人材育成、質の向上の取組、障がい理由とする差別の解消に向けた職員研修にも取り組んでいきたいと思っています。